



特集 73年ぶりの名誉市民

佐野藤三郎

名誉市民選考委員会への諮問や新潟市議会での議決を経て、故佐野藤三郎さんを4人目の名誉市民に選定しました。今号では、佐野藤三郎さんの功績を紹介します。

問 秘書課 (☎025-226-2045)



▲佐野藤三郎さん

3つの分野での主な功績

多くの土地改良事業に取り組み、「芦沼」と呼ばれた湿田を日本有数の穀倉地帯に変えたことで、新潟市の農業の発展に大きな功績を残しました。新潟地震の時には、震災からの復興に尽力し、農地や農業用施設の復旧などに取り組みました。排水改良の取り組みを通じて、浸水対策の面で市民の安心・安全の確保にも大きく貢献しました。



農業
の功績

まちづくり の功績



昭和中期から、急速な都市化の進行を背景に農地転用が急増していく中、まちの発展と農業の健全な調和に向け、都市と農村が共に発展できる地域づくりに取り組みました。この理念は、現在の「都市と農業が調和する新潟市」の形成・発展につながるなど、新潟市のまちづくりに大きな影響を与えました。

中国政府からの要請を受けて、黒龍江省三江平原の農業開発へ積極的に協力し、中国の大食料生産基地の実現に向けて奔走しました。この取り組みをきっかけに、「新潟県日中友好協会」や「日本海圏経済研究会」を設立するなど、環日本海を軸とした経済交流の流れを作り、新潟市の国際交流の先駆者として大きな功績を残しました。



国際交流
の功績

名誉市民とは

市民や新潟市に関係の深い人物のうち、学術や技芸、文化の進展または新潟市の発展に多大な貢献をし、その功績が顕著で市民から深く尊敬されている人に与えられる称号のことです。

市長より



この度、佐野藤三郎さんを73年ぶり4人目の新潟市名誉市民に選定しました。佐野さんは、類まれな行動力と統率力で、今日の新潟の礎を築かれた方です。かつて、「地図にない湖」といわれた湿田を美田へと変え、新潟地震からの農業の復興にも力を尽くされました。今では、新潟市の米の産出額や水田耕地面積は全国1位となりました。また、1960年代ごろから都市化が進行する中、都市と農村が共に発展できる地域づくりに取り組みました。さらに、佐野さんの活動は海外にも及び、当時、大湿地帯であった中国黒龍江省三江平原の開発計画に「自らの経験が中国農業の役に立つのなら」と積極的に協力されました。新潟県日中友好協会を立ち上げるなど、まさに本市の国際交流の先駆者であり、さまざまな分野で功績を残されました。

佐野さんが礎を築いてくれた、新潟市の「都市と田園が調和し暮らしやすい」という強みを最大限生かし、本市を活力ある日本海側の拠点都市に成長させていきます。

昨年、「食の新潟国際賞財団」が佐野さんを紹介するマンガを制作しました。本市では、これを小学生3・4年生が学校で使用するタブレット端末で読めるようにしています。

名誉市民となられたことをきっかけに、より多くの皆さまに佐野さんのことを知っていただき、次の世代へと受け継がれるよう、功績を広く発信してまいります。

新潟市長 中原 八一

目次 CONTENTS

特集

1~3 73年ぶりの名誉市民
佐野藤三郎

4 にいがたCITY NOW

- 物価高騰等対策給付金を支給
- 松くい虫被害の予防対策
- 8/17オーケストラはキミのともだち
- 5月は消費者月間

5 連載 おでかけ日和
ニキロニュース
Noism 20周年記念公演

他3ページは区役所だより
「情報ひろば」は別冊で発行しています



市の各種手続き、
催し案内などは
土・日曜、祝日も
新潟市役所コールセンター
編集・発行/新潟市広報課
〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602-1 ☎025-226-2089

年中無休8:00~21:00

こたえてコール 025-243-4894

FAX 025-244-4894 Eメール 4894call@call.city.niigata.jp

新潟市の人口・世帯数

(3月末住民基本台帳人口。かつこ内は前月との比較)
人口 764,193人(-1,904)
男 367,708人(-1,050) 女 396,485人(-854)
世帯数 349,561(+470)